

ウミガメとレジ袋

平成18年9月の末に、東北公益文学大学の構内で、国連環境計画が主催する海洋ゴミ対策についてのシンポジウムがありました。ちょうど来町していた武蔵野市立関前南小学校のセカンドスクールの子どもたちと海洋ゴミの展示を見に行ってきました。



死んだウミガメの胃の中から、大量のレジ袋など、プラスチック系のゴミが出てきました。ウミガメは、ゆらゆらと漂うレジ袋をクラゲと間違えて食べてしまうのです。プラスチックは消化されずに、胃の中に留まり、ウミガメは、餓死してしまいます。このほかにも、足に釣り針が引っかかって動けなくなった海鳥、釣り糸が首に巻きついたアザラシなど、人間が捨てたゴミが生きものにひどい被害を与えていることに衝撃を受けました。

海洋ゴミのほとんどは、レジ袋やペットボトル、漁具などプラスチックのゴミです。プラスチックは、劣化してぼろぼろになって、どんなに小さくなくても、プラスチックの性質が変わりません。紙のように溶けてなくなっていくということがなく、生きものには消化できません。子どもたちは、ゴミを捨ててはいけないのはもちろんのこと、「もっとシンプルに暮らさないといけないね」と話合いました。